

総務文教委員会会議録

開催年月日	平成29年 1月19日(木)	場所	議会委員会室
案 件	・調査第4号 防災計画について		
出席委員	萩原委員長、関野副委員長、岡本委員、天日委員、渋谷委員、後藤委員		
欠席委員	—	事務局	倉本
オブザーバー	—	傍聴者	—
説明員	—		
開会時刻	13時29分	実会議時間	00時間07分
		休憩時間	01時間52分
閉会時刻	15時28分	延会議時間	01時間59分
次回日程	2月 2日 13:30～		
要点記録	<p><概要></p> <p>○事務調査第4号「防災計画について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画全体について <ul style="list-style-type: none"> ・地域の積み上げ、地域の声を入れた形での防災計画を考えてもよい。 ・家庭でもできる身近な防災対策の項目もあってよい。 ・この計画は詳細に作られているけれども、本当に実行できる内容か。 ・日ごろの訓練、地域の理解という前提がないとうまくいかない。 ・計画ができあがったときに庁内でこれが機能するかの検証をどれくらいやっているか。 ・災害発生時における近隣市町村との情報共有や連携について <ul style="list-style-type: none"> ○南富良野町での対応について <ul style="list-style-type: none"> ・北海道と市町村の協定で自主応援という項目で自主的に情報収集を行い、応援要請がなくても応援を行えるようになっている。 ・ボランティアセンターで統率者の決定は難しいので、他市町村からの応援部隊で対応できれば、効率的な復旧作業もできた。 ○近隣自治体との防災協定について <ul style="list-style-type: none"> ・協定を結んでお互いの役割を明確化しないと動けない。 ・全体で災害に見舞われたときも連携を取り合って、どう作業を進めていくか。 ・関係機関や民間事業者との防災協定のあり方について <ul style="list-style-type: none"> ○応急生活支援物資の供給等に関する協定について <ul style="list-style-type: none"> ・突発的な災害時の要請に、どの程度応えていただけるのか。そこが担保されないなら自前で用意すべき。 ・繁忙期は出払っている。排水用ポンプも発電機も用意できなかった。 ・協定を結んだだけで終わっている。地域の声を反映させるのはどうだろうか。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の備えについて ・情報を常に発信することやガイドブックを年一回は見直す日をイベント化するなどの取り組みはできないだろうか。 ・電柱や児童館等に避難先を書けないだろうか。 ・定期的に災害対策本部を立ち上げ訓練や発生時を想定した図上訓練をやっておくにこしたことはない。 ・避難所運営の体制づくりと職員等の役割について ・避難所運営のマニュアルに地域の声を入れてもよい。これをもとに地域（自主防災組織）とともに動けばよい。 ・職員は行政上の業務にかからないといけない。地域が避難所運営にかかると、ガイドブックに必要なものが載っていると認識できる。 ・これは長い期間の避難所開設を想定している。避難所の役員をどうあてはめるか。長期と短期の開設で作り方が違う。 ○山部での避難について <ul style="list-style-type: none"> ・避難所マニュアルはどの場面で生きて、どの程度実行できたか。また、どのように記録を整理したか。 ・避難所における初動体制の意識が弱かったように感じられる。 ・総括について ・いま持っている課題についてダメだったというよりも、まず、実態をどういうふう把握して、どのような課題が見えたのか。 ・立場が変わればやり方が変わる。それぞれを防災や災害復旧に対する知恵やアイテムと考えるべきかと思う。 ○次回の委員会について <ul style="list-style-type: none"> ・これまで議論してきたことをもとに、総務部と意見交換を実施。
--	---

以上、委員会会議録について富良野市議会委員会条例第 27 条の規定により、ここに署名する。

委員長 萩原弘之